

●●銀 章●●

善行銀章を受けて

東京都新宿区
前田 哲也



この度光栄なる善行銀章をいただく事になりました。御礼申し上げます。新宿支部に入会し約十六年になりその間四代の支部長から『明るく住みやすい社会創り』という善行会の基本理念を学ばせていただきました。

私が今回の受賞に至る社会貢献活動を見ますと、小中学生へ少林寺拳

法の指導を行い、外国のホスピス・学校建設への継続的な寄付。また、自宅の銭湯の脱衣場を使用して「AED救命講習会」の企画・指導」を継続している事です。受講者の延べ人数は一八六〇名になり、その中から人命救助活動をした方が数名います。その方達には善行表彰の推薦を上げています。

今後の方向は地域住民へさらにAED救命講習会の受講を進め、東京都浴場組合へはAED設置の重要性をPRし、TKO KYO2020へ向けて防災街づくりに邁進していくつもりです。AEDの設置は全国浴場一店舗で、『災害時マニュアル』を代表で作製しAEDの設置の重要性を盛り込み

支部だより

大分県竹田支部設立 (七十四番目)

平成三十年三月三十日に竹田市役所応接室において準備会を行い、四月二十四日に竹田市内の飲食店で会員五名と首藤勝次竹田市長が出席して大分県竹田支部設立総会が行われた。市長からの祝辞と役員承認の後、事務局から経緯を説明した。中城賢一支部長が「ボランティアなどの善行を通じて、住みよい社会づくりを目指して、地

道に地域で活動して善行の輪を広げましょう。また、現在は、会員が少なく、日本善行会に推薦したい。」と挨拶した。その後、今後の事業計画について出席した会員で協議をし、散会した。



組合員に推奨していません。二十四時間夜間でも貸し出せる計画を発信しています。日本善行会の皆様、本日は大変ありがとうございました。

東京ブロック会

定期総会と 懇親会を開催

日本善行会東京ブロック会(会長 栗原忍)の定期総会・懇親会が五月十二日、東京都新宿区のシエンロントーキーで開催された。開会にあたり栗原ブロック会長から「四月一日に石毛利雄前ブロック会長よりバトンを受け継ぎ、と穏やかな中にも感慨を込めた挨拶があった。

続いて勝野堅介本部長、高田修本副会長より挨拶があり、直ちに議事に入った。議案は出席者一同による慎重審議の結果、原案通りすべて承認可決された。

浦野秀樹北区支部長(本部監事)の閉会挨拶で総会を終了した。懇親会は山下純雲子本部長、石井博博豊島支部長(本部常務理事)の乾杯の音頭でスタートした。歓談の中、各支部間の意見・情報交換などが活発に行われた。

慶福のひと時を共有する中、西村弘小平支部長(本部理事)の中締めでお開きとなった。

ふる里自慢

青森県八戸支部

うみねこが舞う燕島神社



平成二十三年三月十一日の大震災から、ようやく復興も進み、サア！これからだと言う平成二十七年十一月五日、八

戸市のシンボルであり特に漁業関係者の守り神である燕島神社の社殿が原因不明の火災により焼失いたしました。突然守り神を失った市民を始め、地元関係者の驚きと失望の胸中は計りしれない物があったと思います。燕島は大正十一年にうみね

この繁殖地として天然記念物に指定され、さらに平成二十五年には三陸復興国立公園に指定、三陸口となりました。うみねこは毎年二月の節分を過ぎた頃から集まり始め、三月末には約三万羽を越える数となります。四月下旬産卵、五月下旬孵化し子育てが始まります。六月中頃から巣立ち準備、七月中頃から徐々に飛び立ち八月上旬には全てのうみねこが燕島から離れます。八戸港の中にある市街地に近く春になれば、市民はもとより全国各地からの観光客で島はにぎわっています。今は社殿復興のため、市民始



め商工会議所、漁業関係者、観光団体、各種ボランティア等からの寄付金が集まり再建が進んでいます。四月にはシートの影ながら社殿の姿が見えるまでになりました。平成三十二年の春には、焼失した神社よりひとまわり大きな新社殿が完成します。

お知らせ

▽定期総会

〔日時〕 六月二十九日(金) 十三時～十五時

〔場所〕 東京都千代田区 東京国際フォーラム G409

総会終了後 懇親会を開催いたします。

東京都新宿支部

総会の開催

四月二十八日(土)十七時から日本善行会新宿支部の総会が、新宿駅西口「三國一アイランドイツツ店」において支部会員十名が参加して開催されました。

勝野支部長、前田副支部長からの昨年夏の支部総会以降の支部の活動や本部の最近の状況等について報告の後、日本善行会会長就任に伴い、勝野支部長が新宿支部長を退任し、前田副支部長が後任の新任支部長に就任することが決定されました。

新宿支部の活動等についての意見交換等の後、懇親会に移り、和やかに懇親が行われました。今後新しい体制のもとで支部の様々な活動を一層充実させていくことを確認して閉会しました。

大分県大分支部

春の全国交通安全運動へ参加

平成三十年四月六日から四月十五日までの十日間官民一体の行事として「春の全国交通安全運動」が展開されました。日本善行会大分支部では四月十一日十四時から大分市内の中心部のスクランブル交差点で街頭活動を実施しました。この運動では役員の皆さんによる折り鶴の提供を頂き、また、今回は大分中央警察署の警察官のご協力を頂きました。

はじめに事務局長より「折り鶴」の制作のご協力のお礼と、活動上の注意事項があり、松井猛支部長の挨拶のあと、各自チラシと折り鶴を手にご高齢の方を中心に声掛けをしました。「高齢者

の交通事故が多発しています。気をつけてください。」と呼びかけ、役員皆さんの心もった「折り鶴」で行き交う人達に気持ち伝わったのではないかと思います。皆さん立ち止まり、「ご苦労様です」とかえる言葉が嬉しくなります。



この様なやり取り、配布物四百部用意しましたが、一時間の予定が三十分位で終了、支部長の終了の挨拶、皆さんで集合写真を撮り、支部長のお茶の差し入れをいただき解散しました。爽やかなひと時でした。

善行川柳

選者 東 逸平

○赤い羽根 付けていささか ボランティア 北海道 齊藤 勉

評/いいですね。正に善行川柳の雰囲気を満たしていますね。赤い羽根とボランティアが見事に噛みあっています。

○ボランティア 掃いても掃いても 桜散る 静岡県 真野 和代

評/掃いても掃いても積もってくる花のいのち達に苦笑まじりに語りかけている作者の姿が浮かんできます。

○声掛けの その一言が 嬉しそう 香川県 丸野 忠義

評/スムーズに出たベテランの発句。《声掛けの その一言が》がとても良いですよ。

今回はベテラン作者三人がよせてくれた十二句の中から選びました。

一人一句の掲載ということで、それぞれ優れた作品を掲載しましたが、掲載以外の作品にも良い作品が多数ありました。次回が楽しみです。